

2023年度
(第59期)

事業報告書



自 2023年 1月 1日

至 2023年12月31日



国立京都国際会館

KYOTO INTERNATIONAL CONFERENCE CENTER

目次

I 事業の概況

1. 総論	P.1
2. 催事開催状況	P.1
3. 業績	P.2
4. 2023年に開催された主な催事	P.2
5. 主な取り組み	P.4
(1) マーケット別の営業戦略	P.4
(2) セールスプロモーション戦略	P.5
(3) 法人運営について	P.6
(4) 既存設備の更新による利便性向上	P.6~7

II 法人の概況

1. 法人概要	P.8
2. 理事会及び評議員会等に関する事項	P.9
(1) 理事会及び役員に関する事項	P.9
(2) 評議員会及び評議員に関する事項	P.10~11
(3) 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項	P.12

III 法人管理	P.13~15
----------	---------

I 事業の概況

1. 総論

2023年は、京都コンgres(2021年)以来の国連主催会議である「インターネット・ガバナンス・フォーラム(IGF 2023)」やグローバル企業のトップなどのVIPが多数出席した「Global Summit 2023」など注目度の高い大型の国際会議が開催された。

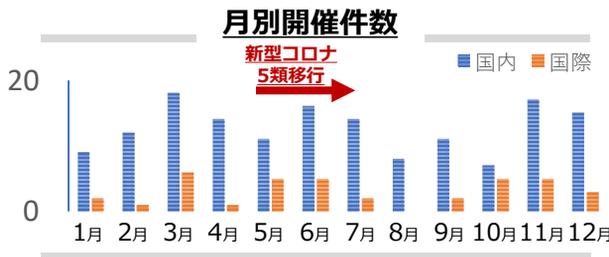
また、自主企画事業としてもそれぞれ4年ぶりの開催となった「乾杯の夕べ」や「宝松庵茶会(春・秋)」が実施されるなど、催事・自主企画の両面で『交流の場を提供する』ことこそが、当館の使命であることを改めて認識した1年となった。

その中で、交流の場として来館者にとってより快適な空間を提供するために、Wi-Fi等に係るネットワーク基幹システムの増強や長期運用していたエレベーターの改修工事を実施するなど、時代に即した会議施設へと進化するよう取組を推進した。

一方で財務面では、光熱費を始めとした物価高騰の影響を受け、維持・管理費等が増大したことにより、2020年度以来の赤字決算となるなど厳しい局面を迎えている。

この状況を受けて、当館では約30年ぶりの料金改定を実施するとともに、厳しい課題に対して全館一致で取り組めるよう組織ミッションを策定した。

引き続き、難しい状況が続くが、当館の使命と社会的意義を再認識しつつ、この局面を乗り切っていく。



月別海外参加者数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
170	50	618	602	1,481	2,106
7月	8月	9月	10月	11月	12月
1,100	1	599	6,722	822	556

2. 催事開催状況

催事件数と参加者数

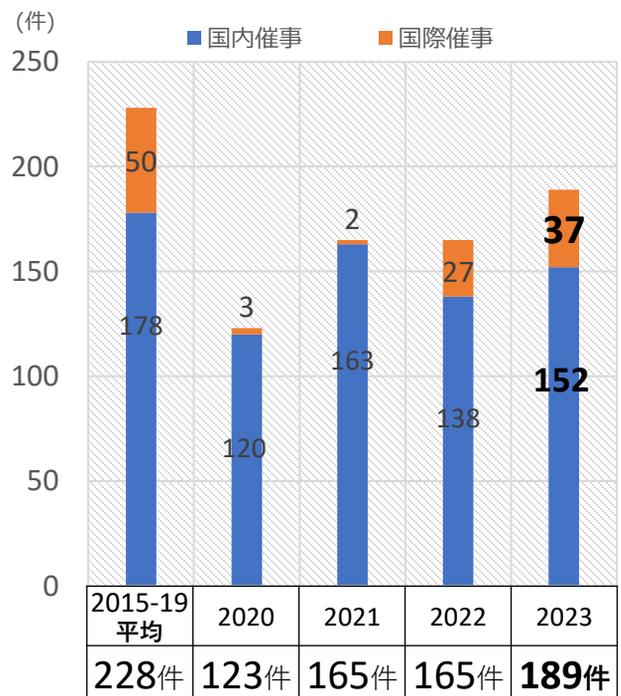
2023年度は、空調設備やエレベーターの改修工事、南駐車場の拡張工事などが行われ、会場貸出に一部制限があったことや、医学会等の開催件数が伸び悩み、国際会議37件、国内会議152件の計189件の開催となった。件数としては、コロナ禍前の水準(※)と比べると、依然8割程度に留まった。

催事規模では、参加者3,000名以上の大型催事が、コロナ禍前水準(※)では18件であるのに対し、2023年度は9件であった。

開催件数・規模ともに、コロナ禍から完全に回復したとは言えない状況であり、今後も一層の誘致営業活動を推進する。

※2015～2019年度の平均

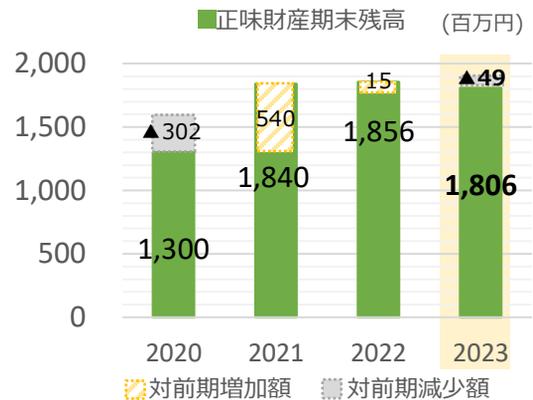
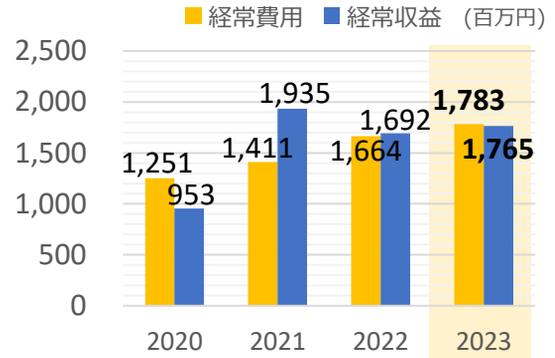
開催件数の推移



3. 業績

新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、コロナ禍からの回復傾向で、催事ごとの使用会場数・使用時間も増加した。その結果、売上面では当初予定を上回る1,765百万円を達成（予算比307百万円の増加）したが、光熱費高騰や修繕費の増大、また催事運営におけるネットワーク関連機材等の仕入費増による支出増加（予算比124百万）のため、3期連続の黒字達成とはならなかった。

結果として、経常収益1,765百万円（前年比73百万円の増収）に対して、経常費用は1,783百万円（うち特定費用準備資金として12百万円を執行）となり、当期経常増減額は17百万円の減額となった。経常外支出等を加味した当期正味財産の減少額は49百万円となり、正味財産の期末残高は1,806百万円となった。



4. 2023年に開催された主な催事

第50回日本集中治療医学会学術集会
3月2日~3月4日 6,500人

Asia Pacific Network Information Centre Conference
9月7日~9月14日 600人

Protostars and Planets VII
4月10日~4月15日 790人

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム
(STSフォーラム) 第20回年次総会
10月1日~10月3日 1,000人

第17回世界仏教婦人会大会
5月11日~5月12日 2,180人

Internet Governance Forum Kyoto 2023
10月8日~10月12日 6,300人

第30回原子力工学国際会議
5月21日~5月25日 1,100人

Art Collaboration Kyoto
10月27日~10月30日 20,400人

The Global Summit 2023 (Consumer Goods Forum)
6月6日~6月8日 950人

Ambient Kyoto 2023
11月3日 2,000人

第22回固体センサ・アクチュエータ・マイクロシステム
国際会議
6月25日~6月29日 1,040人

第38回京都賞授賞式
11月10日~11月11日 1,600人

※参加者数は現地参加者数

2023年に開催された催事の一部ご紹介

Global Summit 2023

会期：6月6日～8日

主催者：Consumer Goods Forum (CGF)

参加者数：約950人

「Global Summit」は、消費財関連企業のCEO・経営幹部が集まり、将来のビジネス動向について議論し、ネットワークを構築するだけでなく、トップ会談も行われる重要なアニュアルイベント。今年は、京都をモデルとした「街と企業の連携」などサステナビリティを始めとした多様なベストプラクティスが共有され、Race to Zero Accelerator*として、ローカル食材の積極的な採用や使い捨て容器・プラスチック包装の最大限の削減など、持続可能な会議を目指した様々な取り組みが行われた。当館も初の取り組みとして、会期中の電気・水・ガスの使用量を計測するなど、コロナ禍後初のAssociation主催の国際会議をサポートした。

*Race to Zeroは2030年までに温室効果ガス排出量実質を半減するため、その達成に向けた行動をすぐに起こすことを呼びかける国際キャンペーン。Acceleratorは、その動きを加速する団体のこと。



科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第20回年次総会

会期：10月1日～3日

主催者：NPO法人 STSフォーラム

参加者数：約1,000人

STSフォーラム第20回年次総会が、10月1日～3日にかけて開催された。岸田首相、西村経済産業大臣、盛山文部科学大臣、高市経済安全保障担当大臣らが出席したほか、各国から科学者、政策決定者、企業経営者が多数参加した。AIをテーマにした5セッションを含む34セッションの他、「国際科学技術関係大臣会合」や「気候変動に関する地域的対応」、各分野から選ばれた若手リーダーにノーベル賞受賞者との直接対話の機会を提供する「若手リーダーとノーベル賞受賞者との対話」などのサイドミーティングが開催された。



The 18th Annual Meeting of the Internet Governance Forum

会期：10月8日～12日

主催者：国際連合 / 総務省

参加者数：約6,300人

インターネット・ガバナンス・フォーラム(IGF2023)が、10月8日～12日にかけて開催された。同会議は、インターネットに関する諸課題について、国連主催のもと、政府、民間、技術・学術コミュニティ、市民社会等のマルチステークホルダーが対等な立場で対話を行うインターネット政策の分野では最も重要な会議の1つ。岸田首相、鈴木総務大臣、西村経済産業大臣、河野デジタル大臣らが出席したほか、各国の閣僚級や世界的企業のトップ等が参加した。会議では、信頼性のある自由なデータ流通（DFFT）や偽情報対策、また現在急速に普及する生成AI等について活発な議論が展開された。



5. 主な取り組み

(1) マーケット別の営業戦略

国際会議・学会の新規誘致

国際会議の誘致については、2022年に引き続きIBTM（バルセロナ）、4年ぶりにIMEX（フランクフルト）のMICE見本市に出展。多くの国際本部や海外PCO（会議運営会社）、エージェントなどから商談申込があった。その後、具体的な提案依頼をいただき、受注に至った催事も3件あった。

会場選定の入札では、①キーパーソンへのアプローチ、②開催地選定要因の情報収集、③会場視察時の印象に注力した。

国内医学会については、東京所在の事務局を中心とした定期的な訪問や、キーパーソン・PCO等へのアプローチを行い、顧客のニーズを掴むことで、最適な日程・会場使用を提案した。

結果として、国際会議・学会の新規誘致は、2025～2030年開催催事を主なターゲットとし、34件を受注した。



当館以外の京都ブース共同出展者
「京都文化交流コンベンションビューロー」
「ザ・プリンス京都宝ヶ池」
「ハイアットリージェンシー京都」
「京阪グループホテル」、「京都東急ホテル」

企業・団体・エージェントへの新規営業

訪問セールスによる新規案件獲得を増やすため、1名で担当していた体制から4月に新たに3名体制の営業グループを発足した。この体制の下、177件の顧客訪問を行い、261件のお問合せを受けての商談など積極的な営業を展開した。

その結果、企業・団体・エージェントへの新規営業は、2023～2025年開催催事を主なターゲットとし、27件を受注した。

なお、2023年は、東京のエージェント・企画会社を中心にセールスを実施したが、2024年は更に訪問件数を増やすだけでなく、保険・製薬企業への直接アプローチも行っていくことで、受注数増加に向けて取り組んでいく。

既存顧客（リピーター）との関係維持と深耕営業

定期的に訪問を行うなど、長期的な関係の継続を図るよう努めた。コロナ禍により、2019年を最後に開催が中止となっていた「京都賞授賞式」が4年ぶりに開催された。コロナ禍で中止になっていた催事については、ほぼ回復したと言える。



第38回京都賞授賞式

既存顧客(リピーター)については、関係構築の結果として2023年及び2024年の催事を128件受注した。

(2) セールスプロモーション戦略

自主企画事業「乾杯の夕べ」の機会を活かした販促・提案

7月29・30日に4年ぶりに開催された夏の自主企画事業に顧客をご招待した。2日間で、当初予定の倍以上である90名のお客様にご参加いただき、当館の強みであるガーデンパーティーや打ち上げ花火の様子を実際に見ていただく好機となった。

また、当館の近況をお伝えする機会を設け、最近の国際会議の開催事例や当館のサステナビリティ向上に向けた取組についてご紹介した。

当館の利用を検討中のお客様にも具体的な開催イメージを持っていただくことができ、受注に繋がった案件も複数あった。



試食としてお出しした地産地消の食事と趣向を凝らした飲み物も好評

料金改定の機会を捉えたアプローチ

エネルギー価格をはじめとする物価高騰等の影響により、11月に約30年ぶりとなる会場使用料金の改定を行った。また、ニューホール拡張工事の延期も発表され、拡張後のニューホール利用を予定されていた主催者に対して、特に丁寧な説明が必要となった。

工事延期発表後には顧客を訪問し、状況の説明と代替案などの提案を丁寧に行った。改めて把握した顧客のニーズを捉え、これに応じたサービスの企画・提案に取り組んでいく。

セールスツールとしてのWebsiteの活用

当館Websiteに催事開催事例をアップし、セールスツールとして活用した。写真・動画による事例の紹介により、開催イメージをビジュアル化することにより、新規問い合わせ案件等の受注確度を高めることを狙った。2023年は国際会議10件を含む計18件を紹介した。

また、当館Websiteの閲覧の6割はスマホからという調査データを分析し、「PCからスマホへ」と変化した顧客の行動に応じたユーザビリティの向上を図るため、WebsiteのPC版・スマホ版のそれぞれに適したリニューアルを行う。



より使いやすくリニューアルされたスマホ版サイトのイメージ

(3) 法人運営について

未来を見据えた「組織ミッション」の策定

12月には、未来を見据えた「組織ミッション」を策定した。今後数年、物価高騰による光熱費の増大、ニューホール工事の延期など当館を取り巻く厳しい状況が見込まれる。職員一人一人の使命や、果たしてきた役割を改めて認識するための「ミッション」、これと併せて、中長期的に目指すべき組織の姿を示す「ビジョン」と、日々の業務における行動指針を示す「バリュー」を確立し、組織一丸となり厳しい状況を乗り越えていく。



自主企画「乾杯の夕べ」「宝松庵(春・秋)」の復活開催

「乾杯の夕べ」と「宝松庵茶会(春・秋)」を、ともに4年ぶりに開催した。「乾杯の夕べ」では、2日間のべ3,000人を迎え、新たに「子ども縁日」を催すなどし、普段入ることができない国際会議場である当館を大人からお子さままで親しんでいただけるイベントとして成功裡に終えた。また、「宝松庵茶会(春・秋)」には、春:約210人、秋:約280人の参加があり、茶の湯を通じた交流の生まれる場となった。



(4) 既存設備の更新による利便性向上

南駐車場(旧第3駐車場)拡張工事の実施

2024年度の着工を見込んでいたニューホール拡張工事による北駐車場(旧第1駐車場)の大幅縮小に備え、南駐車場の拡張工事を実施した。従来の3倍以上となる、129台の駐車が可能となり、これまで関係者専用としていたものを、一般利用も可能とした。工事にあたっては、専用道路側の既存樹木をできるだけ残すことにより、景観に配慮した。



本館8号エレベーター更新工事の実施

長期間運用していた本館8号エレベーターを、バリアフリーにも配慮したユニバーサルデザインのエレベーターに更新した。また、地震時管制運転装置等を備えるなど最新の耐震性能を備え、安全性の向上を図った。

照明の計画的なLED化

照明のLED化を計画に基づき実施。光熱費を削減しながら、省エネルギーの推進にもつながっている。2023年度は主に、会議参加者や地域住民も利用する地下鉄連絡通路の照明をLED化し、省エネルギー・高効率化を図った。



4か年計画に基づく庭園整備

日本庭園の整備を4か年にわたって整備する計画の最終年度を迎え、四季を通じて景観や散策を楽しめる庭園に整備した。具体的には、ふじ棚を設置や、樹木(桜、寒椿、つつじなど)の補植を行い、当館の魅力の向上に努めた。



メインホールのリモートカメラ更新工事の実施

メインホール常設のリモートカメラ2台を4K対応に更新し、撮影から投影まで4Kの映像信号での伝送が可能になった。これにより、最新の映像技術を活用した、より多彩な演出が可能になった。



館内フリーWi-Fiの増強

海外参加者を中心にWi-Fiの利用率が高まっていることから、機器及び回線の増強を実施した。参加者個人のスマホ等が3,000台まで同時接続可能となり、全館規模の催事をカバーできるようになった。



コラム

「京都モダン建築祭」で特別公開

11月、京都市内の約50のモダン建築が公開される「京都モダン建築祭」にて、メインホールや貴賓室(Room160)を特別公開した。また、この公開に合わせ、「特製モーニング付き特別見学ツアー」を実施。当館の建築やアートを興味深く見学する参加者の姿が見られた。

2日間でのべ約2,700人の参加があり、モダン建築の代表する当館の魅力を一般の方にも広く知っていただく機会となった。



II 法人の概況

1. 法人概要

(1) 設立年月日

財団設立 1966年（昭和41年）1月31日

開館 1966年（昭和41年）5月21日

公益法人への移行2011年（平成23年）3月25日

(2) 定款に定める目的

国有の会議場施設の管理の委託等に関する特別措置法に基づき管理の委託を受けた国有の会議場施設を適切に管理し、効率的に運用することにより、国際相互理解を促進し、学術、科学技術、文化等の振興及び地球環境の保全等に寄与することを目的とします。

(3) 定款に定める事業内容

- 1) 政府又は政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致及び運営事業
- 2) 国際交流と日本文化の普及事業
- 3) 国立京都国際会館の施設管理事業
- 4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(4) 所轄官庁に関する事項

内閣府

(5) 主たる事務所・従たる事務所の状況

主たる事務所：京都府京都市左京区岩倉大鷲町422番地

従たる事務所：東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル419

2.理事会及び評議員会等に関する事項

(1) 理事会及び役員に関する事項

①理事会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第117回理事会	2023年3月9日 午前11時00分～午前12時00分 当館Room A	第1号議案 2022年度事業報告書（案）及び決算（案）の件 第2号議案 特定費用準備資金等の計画変更と任意積立金の件 第3号議案 2023年度補正予算（案）の件 第4号議案 第33回評議員会開催招集の件
第118回理事会	2023年12月5日 午前11時00分～午前12時00分 当館Room A及びオンライン	第1号議案 2024年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の件

②役員の異動について

氏名	異動年月日
上村 多恵子	2023年3月27日 重任
塚本 稔	2023年3月27日 重任
藤崎 一郎	2023年3月27日 重任
堀木 エリ子	2023年3月27日 重任
堀場 厚	2023年3月27日 重任
湊 長博	2023年3月27日 重任
彦惣 弘	2023年3月27日 重任
高津 靖史	2023年3月27日 新任
西田 憲司	2023年3月27日 退任

③役員氏名

※理事長、副理事長、常任理事、理事、監事の順に五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	明石 康	理事	藤崎 一郎
副理事長	村田 純一	理事	堀木 エリ子
常任理事	内田 俊一	理事	堀場 厚
理事	上村 多恵子	理事	湊 長博
理事	門川 大作	理事	山極 壽一
理事	塚本 稔	監事	彦惣 弘
理事	塚本 能交	監事	高津 靖史
理事	西脇 隆俊		

理事長1名、副理事長1名、常任理事1名、理事10名、監事2名（2023年12月末日現在）

(2) 評議員会及び評議員に関する事項

①評議員会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第33回評議員会	2023年3月27日 午前11時00分～午前12時00分 当館Annex Hall及びオンライン	第1号議案 2022年事業報告書（案）及び 決算（案）の件 第2号議案 理事選任の件 第3号議案 監事選任の件 第4号議案 評議員選任の件 第5号議案 役員等候補選出委員会規則の 改定の件 第6号議案 役員等候補選出委員会の委員 選出の件

②評議員の異動について

氏名	異動年月日	氏名	異動年月日
阿南 史代	2023年3月27日 重任	手嶋 龍一	2023年3月27日 重任
池坊 専好	2023年3月27日 重任	寺島 実郎	2023年3月27日 重任
石毛 博行	2023年3月27日 重任	中尾 一和	2023年3月27日 重任
井上 正幸	2023年3月27日 重任	服部 重彦	2023年3月27日 重任
岩井 一宏	2023年3月27日 重任	百嶋 計	2023年3月27日 重任
内海 善雄	2023年3月27日 重任	廣瀬 茂夫	2023年3月27日 重任
岡田 憲和	2023年3月27日 重任	三木町 宣行	2023年3月27日 重任
小倉 和夫	2023年3月27日 重任	山下 晃正	2023年3月27日 重任
柏原 康夫	2023年3月27日 重任	吉村 彰彦	2023年3月27日 重任
齊藤 修	2023年3月27日 重任	内田 隆	2023年3月27日 新任
酒井 伸一	2023年3月27日 重任	久保 俊一	2023年3月27日 新任
清野 智	2023年3月27日 重任	大倉 治彦	2023年3月27日 退任
千 容子	2023年3月27日 重任		

③評議員名簿

※五十音順

役職名	氏名
評議員	阿南 史代
評議員	池坊 専好
評議員	石毛 博行
評議員	井上 正幸
評議員	岩井 一宏
評議員	内田 隆
評議員	内海 善雄
評議員	岡田 憲和
評議員	小倉 和夫
評議員	柏原 康夫
評議員	久保 俊一
評議員	齊藤 修
評議員	酒井 伸一
評議員	清野 智
評議員	千 容子
評議員	手嶋 龍一
評議員	寺島 実郎
評議員	中尾 一和
評議員	服部 重彦
評議員	百嶋 計
評議員	廣瀬 茂夫
評議員	三木町 宣行
評議員	山下 晃正
評議員	吉村 彰彦

評議員24名（2023年12月末日現在）

(3) 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項

①役員等候補選出委員会

区分	日時・場所	会議の目的事項
第15回役員等候補選出委員会	2023年1月30日 午後1時30分～午後2時30分 当館Room D	議案 理事候補選出の件 議案 監事候補者選出の件 議案 評議員候補者選出の件

②委員の異動について

氏名	異動年月日
池坊 専好	2023年3月27日 重任
井上 正幸	2023年3月27日 重任
岡田 憲和	2023年3月27日 重任
齊藤 修	2023年3月27日 重任
服部 重彦	2023年3月27日 重任
山下 晃正	2023年3月27日 重任
吉村 彰彦	2023年3月27日 重任

③委員氏名

※五十音順

役職名	氏名
委員	池坊 専好
委員	井上 正幸
委員	岡田 憲和
委員	齊藤 修
委員	服部 重彦
委員	山下 晃正
委員	吉村 彰彦

委員7名（2023年12月末日現在）

Ⅲ 法人管理

公益1：政府または政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致、運営及び会議場施設の管理に関する事業

2023年度開催件数：112件（内訳：国内83件、国際29件）

国連主催のインターネット・ガバナンス・フォーラム(IGF)など、大型催事が多数開催された。海外見本市への積極的な出展やキーパーソン・PCOへのアプローチや、ユーザーの行動分析に基づいたWebsiteのリニューアルなど、様々なチャネルでのセールス活動を推進した。

収益1：公益目的事業に該当しないその他の催事に関する事業

2023年度開催件数：77件（内訳：国内69件、国際8件）

グローバル企業のトップなどのVIPが多数出席した「Global Summit 2023」をはじめとし、企業系イベントの開催復活が目立った。また自主企画事業OpenDay等の開催を通じ、国際会館の魅力を発信する事業を行った。

収益2：飲食・宿泊および売店に関する事業

会議参加者の利便性向上のため飲食店舗、宴会場及び宿泊施設を当会館内に設置し、運営委託先と連携して効率的に事業を進めている。

収益3：有料駐車場及び地下鉄連絡通路広告に関する事業

会館利用者のための有料駐車場や、会議参加者のための地下連絡通路の広告掲載スペースの収入を得て、施設の維持管理費用の一部を賄っている。

収益4：国際交流と日本文化の普及に関する事業

自主企画として、「乾杯の夕べ」と「宝松庵茶会（春・秋）」を、ともに4年ぶりに開催した。「乾杯の夕べ」では、新たに「こども縁日」を催すなどし、2日間のべ3,000人を迎え、普段入ることができない国際会議場である当館に親しんでいただけるイベントとして成功裡に終えた。また、「宝松庵茶会（春・秋）」は、秋の開催では約280人が参加した。

正味財産

(1) 指定正味財産

① 設立時基本財産

(単位：円)

区分	金額	摘要
満期保有目的債券	100,000,000	
定期預金	257,950,000	
計	375,950,000	

※寄付者の詳細は以下 (ア) ~ (イ) の通りである。

(単位：円)

寄付者名	金額
(ア) 地方公共団体	60,000,000
(イ) 民間団体等	315,950,000
計	375,950,000

(ア) 地方公共団体

(単位：円)

寄付者名	金額
京都市	30,000,000
京都府	10,000,000
大阪市	7,500,000
大阪府	5,000,000
神戸市	2,500,000
兵庫県	1,000,000
滋賀県	1,000,000
奈良県	1,000,000
大津市	500,000
奈良市	500,000
和歌山県	500,000
和歌山市	500,000
計	60,000,000

(イ) 民間団体等

(単位：円)

寄付者名	金額	寄付者名	金額	寄付者名	金額
関西電力(株)	30,000,000	(株)島津製作所	2,000,000	中央信託銀行(株)	500,000
大阪瓦斯(株)	20,000,000	日本電池(株)	2,000,000	(株)国際観光会館	500,000
松下電器産業(株)	20,000,000	(財)不審庵	2,000,000	(株)滋賀銀行	500,000
(株)住友銀行	15,000,000	(財)今日庵	2,000,000	(株)丸正	500,000
(株)三和銀行	15,000,000	オムロン(株)	1,500,000	(株)京都センチュリーホテル	200,000
(株)大和銀行	15,000,000	三菱信託銀行(株)	1,500,000	(株)善田昌運堂	100,000
阪急電鉄(株)	10,000,000	三井信託銀行(株)	1,500,000	奥田連峯堂	100,000
京阪電気鉄道(株)	10,000,000	住友信託銀行(株)	1,500,000	山中商会京都(株)	100,000
近畿日本鉄道(株)	10,000,000	(株)高島屋	1,500,000	(株)横山	100,000
日立造船(株)	10,000,000	帝人(株)	1,000,000	大森欣次郎	100,000
住友金属工業(株)	10,000,000	日新電機(株)	1,000,000	計	315,950,000
(株)クボタ	10,000,000	タキイ種苗(株)	1,000,000		
住友化学工業(株)	8,000,000	吉忠(株)	1,000,000		
日本生命保険(相)	8,000,000	京都信用金庫	1,000,000		
(株)大林組	5,000,000	(株)ワコール	1,000,000		
武田薬品工業(株)	5,000,000	中林仁良	1,000,000		
(株)竹中工務店	5,000,000	(株)都ホテル	1,000,000		
住友生命保険(相)	5,000,000	村田機械(株)	1,000,000		
住友電気工業(株)	5,000,000	ニチコン(株)	1,000,000		
日本板硝子(株)	5,000,000	安田信託銀行(株)	1,000,000		
旭化成工業(株)	5,000,000	東洋信託銀行(株)	1,000,000		
大成建設(株)大阪支店	5,000,000	池坊専永	750,000		
(株)京都新聞社	5,000,000	(株)京都ホテル	500,000		
宝酒造(株)	5,000,000	ヤマサン(株)	500,000		
(株)大丸	3,500,000	(株)醸造報知新聞社	500,000		
南海電気鉄道(株)	3,000,000	キンシ正宗(株)	500,000		
三洋電機(株)	3,000,000	千切屋(株)	500,000		
東洋紡績(株)	3,000,000	京料理(株)	500,000		
サントリー(株)	3,000,000	(株)千總	500,000		
阪神電気鉄道(株)	3,000,000	京都中央信用金庫	500,000		
(株)京都銀行	3,000,000	(株)藤井大丸	500,000		
月桂冠(株)	2,500,000	千吉(株)	500,000		
(株)クラレ	2,000,000	京福電気鉄道(株)	500,000		
伊藤忠商事(株)	2,000,000	荒川(株)	500,000		
丸紅(株)	2,000,000	京都青果卸売人協会	500,000		
日本新薬(株)	2,000,000	京都みやこ信用金庫	500,000		
日本レース(株)	2,000,000	(株)比叡山ホテル	500,000		
第一工業製薬(株)	2,000,000	相互タクシー(株)	500,000		